

## 20230704chatlog

CULTIBASE:	こんばんは！まもなく20時より開始となります。もう少々お待ちくださいませ^^
和美 野口:	こんばんは！ 本日もよろしくお祈いします！
hiroaki ajisaka:	こんばんは！個人的に楽しみなテーマ！
hiroaki ajisaka:	ツインボーカルか！！
和美 野口:	CULTIBASEらしい笑
Tomo Inoue:	マニアックな感じをととても楽しみにしています
hiroaki ajisaka:	ブリコラージュ的な体験を期待しちゃうな
hiroaki ajisaka:	前置きw
和美 野口:	小田さん、安齋さんで、このテーマで、1時間で終わるのか！？笑
CULTIBASE:	Q. 皆さんは「対話」をどんなふうに説明しますか？
satoshi amano:	人生の旅の地図は、対話によってつくられる。
hiroaki ajisaka:	新しい意味を見つけるための手段ですかね
CULTIBASE:	宛先を「全員」に変更の上、お気軽にお寄せください！
Shro Nohara:	お互いの前提を共有するためのインタラクション
正裕 小井戸:	私にとっての世界確信を出し合って、お互いの差異を見つめて、新しい世界の見方を作るプロセスですかね。
和美 野口:	考えや意見の違いを理解したうえで、互いにとって新しい絵を描いていくこと。
聡子 酒井:	相手の氷山の底も思いやりながら、こちらの氷山の底をオープンにしながらお話しする。
Takuro Horikawa:	あるテーマを通じて、それぞれが大切にしている価値観・信念の交換、みたいな。
CULTIBASE:	先ほど紹介されていたnoteはこちら   これからのデザインに欠かせない「対話」とは何かを改めて考える   ① そもそも対話とは？   <a href="https://note.com/hirokazuda/n/n30ce3e81c321">https://note.com/hirokazuda/n/n30ce3e81c321</a>
CULTIBASE:	イベント後のメールでもご案内いたします
hiroaki ajisaka:	こうやって体系的に見てみると、対話の定義を共有してから対話するって大事なのかもなー
hiroaki ajisaka:	プロセスコンサルテーションは色んなところで役に立ってる概念だな
satoshi amano:	「謙虚なリーダーシップ」は名著ですね。
hiroaki ajisaka:	読みやすくて良いですね。『謙虚なコンサルティング』も良かったです！
hiroaki ajisaka:	一般的な対話って1つ目のコンテナだけだと思われてる気がするな
satoshi amano:	いきなり核心
晋一郎 林:	ネーミング素晴らしいです。一気に腹落ち感が増しました。
hiroaki ajisaka:	「傾聴してるけど対話が上手く行かない」問題の核心をついてる気がする…
聡子 酒井:	自分の小さな箱から脱出する方法という書籍を連想しました
Hayahiko Okugawa:	アナログとデジタルみたいな印象だなあ
聡子 酒井:	有機と無機とも？
Hayahiko Okugawa:	境界の曖昧さみたいなものかー
hiroaki ajisaka:	安齋さん楽しそうw
晋一郎 林:	対話と弁証法がここで並ぶというのが驚き。
Hayahiko Okugawa:	結論かプロセスか、ってコト？
hiroaki ajisaka:	なるほどなー。この段階ではプロセスとして捉えてるわけか
hiroaki ajisaka:	平穏なメンタルで臨まないとこんなに抑えられない気がするw
satoshi amano:	対話とは、自分の檻から脱出する、高度に知的な営み
Shro Nohara:	threshold = しきい値 ですよ
晋一郎 林:	対話をしようという決意を持たせてもらえるような話だなあ。これが対話か！と
聡子 酒井:	深くて、でも外から見たら分かりにくい…
hiroaki ajisaka:	抑えつつも深掘りもするのか。聴くと尋ねるをお互い繰り返す感じかなー
晋一郎 林:	なるほどなー
Shro Nohara:	なるほど～
聡子 酒井:	対話は体力要りますね。留保力
hiroaki ajisaka:	この流れでこの引用は…深過ぎる…
satoshi amano:	善悪の彼岸
Hayahiko Okugawa:	身体的な知性を共有するってことかー
Hayahiko Okugawa:	個人的にブツ刺さりました
hiroaki ajisaka:	「答え」シェアされたってわけじゃないってところがキモな気がするー
晋一郎 林:	amongという単語がそれを表してそうですね。
聡子 酒井:	「落とし所」では辿り着けない領域だな
Shro Nohara:	共同化された知ってたしかに言葉にすることができないですね
Shro Nohara:	わるた
Hayahiko Okugawa:	ありましたねww
和美 野口:	伝説
Hayahiko Okugawa:	安齋さんがフリップで天井した某イベントw
hiroaki ajisaka:	あれ笑ったなw
浩幸 土屋:	阿吽の呼吸？
Shro Nohara:	わかる
晋一郎 林:	あーわかる。
hiroaki ajisaka:	阿吽の呼吸もそうだけど、そこまで至る過程があることが重要なんだよねー
聡子 酒井:	冒険しないと辿り着けないな「それだ！」のかな
Shro Nohara:	「対話」ってキーワード自体がまさにそれ、ミミグリのな前提を共有してない人に対話って言葉つかうと会話か議論のことだと思われがち
Yuki Anzai:	このモデルが初見の方は、ぜひ6/27のセミナーアーカイブを！&7/25のCULTIBASELabの番組でも補講解説します！
CULTIBASE:	6/27のアーカイブはこちらからご覧いただけます！ <a href="https://webinar-mimiguri.studio.site/">https://webinar-mimiguri.studio.site/</a>
Shro Nohara:	組織文化にもサブカルチャーがあるって説明のしかたいいですね
hiroaki ajisaka:	組織文化ってサブカルチャーの集合体ってこと？
晋一郎 林:	経営層の考えがそのまま全社の考えになるわけではないということですね。
CULTIBASE:	【関連】「創造的逸脱」のデザイン：イノベーションを育む組織の在り方を考える <a href="https://www.cultibase.jp/videos/10538">https://www.cultibase.jp/videos/10538</a>
hiroaki ajisaka:	関連コンテンツ盛りだくさんだな…
晋一郎 林:	この図のそれぞれを結ぶ線はすべて「対話」っておっしゃってましたもんね。
hiroaki ajisaka:	留保って言葉の解像度をもう少し上げたいなー
正裕 小井戸:	エボケーですね
聡子 酒井:	面白い！
晋一郎 林:	ずっと聞いてられますね。
hiroaki ajisaka:	言語化できてないですが、エボケーとはちょっとニュアンスが違う気がするんですよねー
晋一郎 林:	自分自身をもっと理解していく。。。深い。

hiroaki ajisaka:	トレーニングとしての対話の場が必要な気がしてきた！
浩幸 土屋:	職場コミュニケーションなどでサブカルチャーを生み出して、組織の膠着を防ぐこともありそうですね。
聡子 酒井:	自分の経験から、共同化の状態ってすぐ元通りになりそうな気がして、どうやったら保てるのかを深掘りしたいです。
万寿江 澤田:	「どうせ聞いてくれない」と思ったら、自分自身の態度がどうなのか、に目を向けてみる。どんな見解を握りしめているのか、考えてみる。
koji furuya:	対話って第三者の誰かとするものでありつつ、自分といかに向き合うかなんですかね。「自分の感覚と違う気がするを味わうこと」なのかもと。
和美 野口:	「留保」を深掘りする必要がありそうです。
hiroaki ajisaka:	組織文化に話がつながるのは熱いな…
和美 野口:	まさか、SECIモデルにつながるとは思いませんでした。。。
西村 歩:	次回「暗黙知」です！宜しくお願いします～！
hiroaki ajisaka:	暗黙知をディグるという字面がもう沼
hiroaki ajisaka:	視聴数無視の番組にしてください！！
万寿江 澤田:	沼コンテンツ！次回も楽しみです笑
CULTIBASE:	感想はイベント後のメールでアンケートをお送りしますので、そちらにお寄せください！
和美 野口:	ありがとうございました！お疲れさまでした！
hiroaki ajisaka:	お疲れ様でした！ありがとうございました！
聡子 酒井:	ありがとうございました！
晋一郎 林:	ありがとうございました！
浩幸 土屋:	ありがとうございました！
Hayahiko Okugawa:	ありがとうございました！
富田 敬順:	ありがとうございましたー！
武長 圭:	ありがとうございました！
CULTIBASE:	本日のイベントは終了しました。ご参加いただき、誠にありがとうございました！